



アミール・ツアルファティ
[アンカー・ポッドキャスト: 天国の現実]

https://youtu.be/R_yg9weWM9Q



アミール: 皆さん、こんにちは。アミール・ツアルファティです。Anchor Podcast の新たなエピソードへようこそ。私たちの持つ希望は、私たちのたましいの錨の役を果たし、唯一の救い主への信仰からのみ得られる希望です。今日私と一緒にいるのは、唯一無二のマイク・ゴレイ牧師です。彼は Behold Israel の副社長であるだけでなく、私の義理の兄であり、親しい友であり、その他にも大きな存在です。私たちは、1990 年代半ばからの付き合いで、自分がこんなことを言っているのが、信じられませんが、すごく…

マイク: ...すごく歳をとった気がする。

アミール: ほんとうに。

マイク: そして、私たちは当時よりも太りました。

アミール: ええと、30 キロじゃなくて、30 年前、私たちは、ある意味、妻たちの家族に加わりました。私は 95 年に結婚して、私が間違っていなければ、あなたはその 2 年後くらいに結婚しましたね。

マイク: ええ、1998 年です。

アミール: 1998 年。私はあなたの結婚式の司会者でした。(マイク:そうでしたね。)そしてあなたの結婚式は、聖書に出てくる場所、ハルマゲドンで行われましたね。(マイク:そう。)あなたの結婚がハルマゲドンだ、と言っているわけではありませんが、でも、あなたの結婚式は、ハルマゲドンで行われました。

マイク: ああ、そうだね。それから、当時、私にはお金がなかったので、あなたのスーツを借りました。



アミール: 私のスーツは、その後、他の人に貸して、その後、あなたにも貸したので、少なくとも2人が、この同じスーツを着て結婚しています。それに、今日私たちが目にするものと比べると、非常に安物のスーツでしたが、しかし、それさえも私たち全員にとって、とても大切だったことを覚えています。

マイク: ええ、まさに。素晴らしい時間でした。そして長年にわたり、私たちは二人とも宣教活動に携わってきました。

アミール: その通り。そして...マイク、私たちは人生とミニストーリーにおいて、多くの浮き沈みを分かち合ってきました。そして、私たちの人生の中で最も辛かった瞬間の一つ、私たちの感情が激しく揺さぶられる出来事が、2年半前にありました。私たちは、私たちの義父、愛する義父と一緒に宣教の旅をしていた時です。彼は、シチリア島から出発してイタリア本土へ向かう予定で、私たちが英国での講演ツアーを終えた後、彼が到着して、私たちは彼と素晴らしい一日半を過ごしました。その後、私は、彼がホテルの部屋で死んでいるのを発見しました。それで、私があなたに電話をすると、あなたも部屋に来て、基本的に、義父の死を確認しましたね。



マイク: ええ、私たちにとって、本当に辛い朝でした。

アミール: はい、そして...私がこの話をした理由は、今日のポッドキャストでは、死後に何が起こるのかについて語り合うからです。そして、実際にマイク牧師の新しく、そして最近の経験、つまり体外離脱の経験について伺います。

マイク: そうですね、臨死体験、文字通り天国の扉です。

アミール: それについてもお聞きしますが、その前に、皆さんにお伝えしたいのは、ご存知のとおり、これは多くの人々を悩ませている疑問です。これで終わりなのか？つまり、私たちはこの世で人生を生き、死んだ後はどうなるのか？ほら、私たちは、明日死ぬこともあり得るのです。というか、マイク、現実を見れば、私たちは今ガリラヤにいて、周囲では、F-16 や F-15 が着陸しています。この週末を通して、たくさんの爆発音を聞いています。私たちは数々のドローンを目撃し、ヘリコプターがドローンを追跡するのも目にしています。基本的に、我々を殺害するはずだったロケットが迎撃されるの

を目撃しています。あのロケットの目的は、人々を殺すことです。我々は戦場において、「もし何かがあった場合、次は何が起こるのだろうか。」と問うのは当然です。

そして、私がこのポッドキャストを行おうと決めた理由は、先日終えた、地中海クルーズで、ヨハネの黙示録とダニエル書を教えながら、大勢の人々と素晴らしい交わりの時間を過ごしたのですが、その時に、私が受けた質問の一つがきっかけです。「一般のイスラエル人やユダヤ人は、なぜ、天国や地獄、そして私たちがこの世を去った後に起こることについて、教えたり話したりしないのか」そこで私は、その女性にこう答えました。彼らがそれについて教えたり話したりしないのは、必ずしも、それが聖書に書かれていない為ではなく、彼らが、それについて話したくないからです。ラビの教えでは、「今の人生に集中し、その後のことは考えないようにしよう。」しかし、旧約聖書も新約聖書も、その後に起こることを非常に重視しています。さて、避けられない話としては、マイク、サウル王が、死んだサムエルからの助言を求めましたね。そして、覚えていますか？彼は、エン・ドルの霊媒師のところへ行き、相談しました。つまり、彼は実際に霊媒師に、死んだ預言者サムエルを死者の墓から呼び出すように頼んだのです。旧約聖書の時代、死んだ者は皆、シェオル(黄泉)に下りました。シェオルは死後の世界で、死んだ人々の魂が行く場所です。忠実に神に従う信者たちは、一つの場所に居て、信者でない者たちは、苦しみ悶える場所に居ました。つまり、アブラハムのふところと、苦しみ悶える場所、両方ともがシェオル(黄泉)、両方が下にありました。そのため、ダビデ王でさえ、詩篇 139 篇でこう語っているのです。「**たとい、私が天に上っても、そこにあなたはおられ、私がよみに床を設けても、そこにあなたはおられます。**」(詩篇 139:8)ですから、神はすべてを支配しておられ、全ての場所に居られます。しかし、旧約聖書の時代、人々は死ぬと下にくだっていきました。そしてイエスの復活が起こったとき、驚くべき変化が起こり、イエスに従う忠実な信者たちは、方向を変えました。そして、その時点から、「**肉体を離れて、主のみもとにいる**」(第一コリント 5:8)つまり、主は天に居られることを私たちは知っています。ですから、すべてが変わりました。しかし、ユダヤ教では、死後の世界についてはあまり重視されていません。聖書には、数多くの例が載っているのに。たとえば、旧約聖書にいくつかありますね...

マイク: ええ、そうですね、例えばエゼキエル書を見ると、エゼキエルは、主が王座に座しておられるのを見て…これらすべてが起こるのを、彼は、幻の中で見えています。そして、そこで見た主の腹部、胴体、そこから、圧倒されるような輝きが放たれていて、その時、彼は、自分が神の御前にいること

を知って、ひれ伏したのです。つまり、神が存在する場所として私たちが慣習的に「天国」と呼ぶ場所です。

アミール: それから、幻の中で神の御前に導かれた預言者イザヤの話もあります。そこで彼は、セラフィムが「聖なる、聖なる、聖なる」と言っているのを見ましたね。イザヤ書 6 章です。それから、ダニエルも、神の御座の間を見ました。これらは旧約聖書の預言者たちで、どこか他の場所に行くという、驚くべき経験をしました。存在しているが、ここからは見えない場所。私は、黙示録を教える際、いつも説明するのですが、第一の天、第二の天、第三の天があって、第一の天は、私たちが見上げたときに見えるもの、第二の天とは、宇宙飛行士が宇宙にいるときに見るもので、ここからは見えません。そのためには望遠鏡が必要です。しかし、第三の天は、最先端の技術をもってしても、私たちの誰も見るできない場所です。そこへパウロは引き上げられました。

マイク: 彼が、第三の天にまで引き上げられたと言っています。こうした現実には、私はいつも魅了されてきました。私が信仰を持つようになってからずっと、いつも疑問に思っていたのは、天国はどんなところだろう？ 私は、本当に 100%そこに行くのだろうか？ イスラム教徒、ユダヤ教徒、ヒンズー教徒、その他の人々と比べて、私は本当に正しい信仰を持っているのだろうか？ 私たちの誰もが、経験的、法医学的証拠によって 100% 確信を得たいと思う側面があると思います。信仰はありますが、それでも、その信仰の中に微かに、「私は本当に天国に行くのだろうか？」「そこはどんな感じなのだろうか？」それを確信したいという思い。

アミール: ええ、私がいつも注目していることの一つは、次に何が起こるかを知ること、現在の生活にどのような影響を与えるか？そこが重要ですから。聖書は告げています。**(第一ヨハネ 5:13)「あなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。」**だから、私たちはただ考えたり、望んだり、祈るだけでなく、知らなければなりません。

さて、私たちは聖書が告げていることについて、永遠に語り続けることができます。人々の考えや、人々が言っていることについて、いつまでも語り続けることができます。しかし、私たち自身の個人的体験に勝るものは、何もありません。そして、まさにそれを、つい最近あなたは経験しましたね。

よく覚えています、私はロサンゼルスに数日間滞在していて、その時に、電話を受けました。でもその前に、あなたは昔からバイクへの情熱を持っていたそうですね。

マイク: モータースポーツ、はい。オートバイ、スリーウィラー(三輪車)、そういったものすべてに囲まれて育ちました。それで、今年の初めに、息子と一緒にまたやり始めたのです。ええ、息子と一緒にこれをやっていました。一緒に免許を取得し、一緒にコースを受講しました。私たちは一緒に乗って、一緒に作業していました。そして、あの出来事が起こる数日前に、ちょうどバイクを修理したばかりでした。

アミール: つまり、美しい夕日を眺めながらバイクに乗るつもりで、バイクを修理したんですね。あなたの奥さんは、私の娘とあなたの長女と一緒に、どこかキャンプ旅行に出かけていて、あなたは、息子さんと末の娘さんと 3 人きり。あなたは、修理したバイクの最後のいくつかの部品を、まさに磨き終えて、そして、考えていた。「風が吹く中、太陽に向かってバイクを走らせるなんて、最高の午後だな。」

マイク: その通り。

アミール: その通り。そして次に、何が起こりましたか？

マイク: ええ、あなたがうまく表現してくれた通り、私はバイク乗車を楽しんでいました。そこへ、全くコントロールも効かず、反応する時間もないまま、右側から鹿が飛び出して来たのです。速度を見ると、時速約 65 マイル、右側に激しく転倒しました。そして私の体は、25~30 メートルほど投げ飛ばされて...

アミール: ...溝に？

マイク: 溝に落ちました。私の後ろを運転していた若い女性が言っていたことですが、この女性は、すべてのことを目撃していました。彼女は車を止め、私は意識を失っていて、彼女は電話で救急車を呼びました。

アミール: つまり、あなたは、時速 65 マイルで走っていた…少なくとも、そう言うべきです。それはともかく…

マイク: 私たち、ここビホールド・イスラエルでは事実を述べます…

アミール: すると、右側から鹿が飛び出してきて、あなたは転倒し、バイクは、横滑り？

マイク: ええ、まっすぐ滑って行きました。

アミール: バイクはまっすぐ滑って行き、あなたは投げ出されて、道路を滑り、道路脇の溝に落ちた。そして、あなたは意識を失いましたね。（**マイク:** はい。）そして、あなたが意識を失って、人々は警察や救急車に電話をかけている間、あなたはどこか別の場所にいた？

マイク: そうです。先ほど、聖書の箇所について話して、神学についても少し話しましたが、次に、何が起こったのかをお話しします。良いですか、私が意識を失っていた間、私はある部屋にいました。部屋のように感じましたが、そこには純粋な平安、安心感、安全感がありました。私はこの部屋から出たくありませんでした。とても心地よかったです。目の前には、ドアのシルエットのようなものが見えました。そして、このドアから、わずかな光の筋が漏れ出そうとしているのが見えました。同時に、私は 2 つの強い存在を感じ、すぐに、コミュニケーションを受け取りました。耳から聞こえる声ではなく、まるで通信のように聞こえたのです。これらは、二人の守護天使です。私は、1988 年にドイツで倉庫の屋根から落ちたときも、同じような経験をしました。それはまた、別の機会にお話ししますが、とにかく、私は、自分が神のご臨在の中にいたと絶対的に信じています。なぜなら、私は、このすべてが起こっているのを見ていた時、完全な平安と安心感を感じていて、痛みは全く感じていなかったのです。このコミュニケーションで、私は、このドアが何かを知りました。それは…

アミール: ドアは閉まっていた？

マイク: ドアは閉まっていました。

アミール: でも、隙間から光が漏れているのが見えたのですね。

マイク: そう。そして、ある声が聞こえてきて、「そこは天国だ。あなたは、今はそこに行くことはできない。まだ終わってないよ、マイク。」



アミール: それをあなたは聞いたのですか? (**マイク:** いいえ) それとも、感じたの?

マイク: 私が感じたのは、言語を超えたコミュニケーションで、心から心へ、はっきりと伝わってきました。心と心の交流のようで、誤解しようのないものでした。まさにその直後、文字通り...そのままを真似して言いますが、文字通り、救急隊員が私の目の前で指を鳴らして、「聞こえますか?」と。

「聞こえますか?」それで私は言いました。「ええ、聞こえます。」彼は言いました。「お名前は? フルネームで教えてください。」-マイケル・ゴーレイ。「今年は何年ですか?」-2024 年。「今は何月ですか?」-7 月。それから、ちょっと失礼だったかも知れませんが、私は言いました。「ちょっと、もっと難しい質問をしてよ。簡単すぎるよ。」すると彼らは微笑んで、すぐに私を救急車に乗せて、「今から病院の緊急治療室に搬送します」と言いました。私は、その途中でこの 2 人の救急隊員と、それから、その後もすべての医療関係者と会話をしましたが、私が一番よく覚えているのは...私は、鹿にぶつかったことすら覚えていません。それは、私の後ろを走っていた女性の証言として、警察の報告書に書かれていたことで、救急車で搬送される途中のことも、あまり覚えていません。看護師や、レントゲン技師、スキャン技師とのやり取りも、病院の外傷治療で過ごした2週間も、ほとんど覚えていません。しかし、この話は覚えています。



アミール: ほら、私が心を痛めるものの一つは、生と死、その後について、多くの人々が、あまりにも無知なことです。何よりも、命について。人々は、生命が受胎から始まることを理解しておらず、だから彼らは、生まれる前のあらゆるものを軽視するのです。聖書のいたるところに、私たちがまだ母の子宮の中にいる間に、神がいかにして私たちを形造られたかが書かれているのに。しかも神は、私たちを奇しく、...そして美しく創造されたのです。神は、エレミヤがまだ胎内にいるときから、彼を預言者として召しておられました。彼はすでに任命されていたのです。そして...だから、私は心が痛むのです。人々がそれを真剣に受け止めず、その結果として、胎児を処分することに何の抵抗も感じない。このトピックについては、また別のポッドキャストで取り上げますが、そして、新しく生まれる、新生しなければならないということが、軽視されています。つまり、人は宗教が自分たちにとって安

全な良い場所だと考えています。「私はいい人間だ。」「私はこれができる、あれができる。」彼らは、善人など一人もいないことを理解していません。完璧な人などいない、正しい人などいない、正しい行いをする人などいない。**「主は天から人の子らを見おろして、神を尋ね求める、悟りのある者がいるかどうかをご覧になった。」**そして結論は、**「善を行う者はいない。ひとりもない。」**(詩篇 14:2-3) そしてもちろん、ローマ書 3:23 です。**「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず…」**ですから、まず、生まれる前の命が軽視され、そして、新しく生まれることが軽視されるのを目にしています。それから、この命の後に起こることに対する、完全な無知です。でもあなたは、今、あなたの人生で起こったことを説明されました。聖書を読み、聖句を探す必要もない。これは、あなたの個人的体験です。

マイク: そう。

アミール: この人生だけではない、これで終わりではない。それどころか、これは、ほんの始まりに過ぎない。

マイク: その通り。あれはとてもリアルで、私はそれを切望しています。私は実際にそれを切望しています。それで、私はパウロの言葉を実感しました。**「私にとっては、生きることはキリスト、死ぬことも益です。」**(ピリピ 1:21) 何があろうとも、イエスを信じるなら、すでに永遠の命に登録されているのです。いつか復活します。私たち信者は、新しい体を与えられることを知っています。死んで先に復活するにしろ、あるいは生きていて空中で神に会うにしろ、私達は、新しい体を得ます。これは、世にとっては、狂った考えのように聞こえます、とんでもない考え、教会でさえ、一部そう考える人たちがいます。しかし、私はここで言います。この事故は、私が望んだことではありません。私はただ、ドライブを楽しんでただけで、これを計画したわけでもなく、これが私に起こるようにと祈っていたわけでもありません。しかし、それが起こりました。そして、体にも影響が出ています。骨折した後は、前の体とはすっかり違って、長期にわたる影響に対処しなければなりません。しかし、私は死ななかったし、昏睡状態にも陥っていません。そして、ほぼ完全に機能が回復しました。これは奇跡です。看護師の誰も信じられなかったのです。私は彼女らにこの話をしました。中には、言い訳をしてこう言った人もいました。「うん、同じような経験をした人は他にもたくさんいますよ。ほら、魂と人間の脳は、時々、奇妙な反応をすることがあるのよ。」だから私は、彼女たちを見て言ったのです。「あなたは、これと同じを経験していない。」アミール、私は、文字通り天国が存在する

ことを知っています。その存在を私は知っています。私は、これまでも神の御手を見てきたので、神が存在することは、ずっと知っていました。でも、私は天国に入る寸前まで行ったのです。そして神は、私の魂を押し戻されました...私は、これを体外離脱体験と呼ぶつもりはありません。私には分かりませんから。しかし、それは間違いなく私の魂と私の体で、15 分ほどの間、何か奇妙なことが起こりました。私が言えるのはそれだけ、ただ、何が起こったのかを伝えているだけです。

アミール: そして、私がものすごく悲しく思うのは、聖書がそれについて語っていて、人々がそれを経験しているのに、なのに、今日、人々は、まるでこの人生が全てであるかのように生きています。カルペ・ディエム！今日を生きよう。これが全てだ。人々は理解していませんが、ここは、私たちの旅路の単なる中継地点に過ぎません。ところで、死の意味を理解していない人がたくさんいます。彼らはそれを理解していません。死は、呼吸が止まることとは何の関係もありません。死とは、神との明確な断絶です。ちなみに、人は死ねばその後の命はない、とは聖書のどこにも書かれていません。たとえ天国にいなくても、どこかで永遠に存在するのです。私はいつも言うのですが、全ての人が永遠の命を持っています。問題は、ロケーション、ロケーション、ロケーション。あなたは永遠をどこで過ごしたいですか？ヘブライ語聖書の旧約聖書の最初の書から、神は、実際、人類が死ぬようには全く意図していなかったことがわかります。神がアダムとエバを創造されたとき、そこには死の計画はなかったのです。死とは、神との分離で、それは、神に対する反逆の結果として起こったのです。しかし、それは決して契約の一部ではありませんでした。神は、アダムを 120 年や 300 年生きるように創造されたわけではありません。いいえ、全く違います。それどころか、いのちの木は、禁じられていなかったのです。しかし、罪が世界に入ってきた時、神は、彼らが戻って、いのちの木の実を食べることを何よりも避けたくて、だからその時、再び近づくことを禁止されたのです。しかし、神は、彼らがいちの木の実を享受することを望んでおられました。だから、新エルサレムには、いのちの木があって、人々はその果実を楽しめるのです。

それで、マイク、あなたは対応されますか...あなたはアメリカ空軍の牧師ですから、きっと、たくさんの方が来るでしょう、特に空軍兵が。彼らには、生きて帰れない可能性のある任務があります。彼らに対して、どのようにアドバイスしますか？

マイク: 私は、彼らに私の体験を話し、聖書の御言葉をシェアします。その前に、彼らに、それを聞きたいかどうか尋ねますが、断った人は、これまで一人もいません。誰ひとり断りませんでした。未信者の世界では、死後の世界に対する大きな関心があります。もし、すべての人間が正直に告白すれば、全員が何らかの疑問を持っていると思います。「自分は死ぬとどうなるのだろう」

アミール: そういえば、ニューヨーク市の大通り沿いの占い師の数は、スターバックスの数をほぼ上回っているそうです。

マイク: ああ、信じますよ。

アミール: 人々は、自分は将来どうなるのか、自分に何が起こるのか、といったことに興味を持っています。人々は未来を知りたいのです。ただ、彼らは、未来は人生の中で自らが下す選択に関連していることを、理解していません。

マイク: ハリウッドでも、昔のインディ・ジョーンズシリーズで、船に乗っていたとき、男がこう言ったのを覚えています。「我が魂は死ぬ覚悟ができています。お前はどうか？」こうした発言は、ポップカルチャーにおいても根付いていて、それらはポップカルチャーから来ています。だから、世界中に多くの宗教システムが存在するのです。私たち全員が、現実であると知っている、霊的なことに対処するためです。経験的にも法医学的にも、私の場合のように、私は、この経験を通して、今、私が知っていることを、知るようになりました。私がそれを求めたのではありません。しかし、アミール、私は次のこともよく分かっています。もし私がイエスを信じていなかったら、その経験はまったく違ったものになっていただろうと確信しています。

アミール: つまり、救世主、イエシュア、イスラエルの聖なる方に対するあなたの信仰、ベツレヘムで生まれ、ここから 10 分ほど離れたナザレで育った方に対する信仰、イスラエルの約束されたメシアに対するあなたの信仰、「ユダヤ人の王」と書かれた罪状書きが十字架の上に掲げられた方、御自分の民のところに来られた方、十字架上でさえ、実際にこのように言われた方、「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」サマリア人の女に「救いはユダヤ人から来る」と言われた方、決してご自分の民を見捨てなかった方、つまり、あなたが言っているのは、非ユダヤ系アメリカ人として、イスラエルのメシア、明らかに世界のメシアに対するあなたの信仰、彼に対するあなたの信仰こそが、神と共に過ごす永遠の命を確保できる唯一の道だということですか？ほら、全ての人が永遠の命を持っています。しかし、場所が異なります。

マイク: まさにその通りです。さらに言うと、聖書がこう告げています。『**天の下でイエス御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていない…**』(使徒の働き 4:12) あるいはヘブライ語で言うと「イエシュア・ハマシア」メシア・イエス、またはナザレのイエシュア、「イエシュア」とは、文字通り救いを意味します。

アミール: 興味深いことに、預言者ダニエルでさえ、最後の第 12 章でこう告げています。皆がよみがえる。『**ある者は永遠のいのちに、ある者はそしりと永遠の忌みに。**』(ダニエル 12:2) 彼は基本的に、千年王国の終わりに行われる大きな白い御座の裁きについて説明しています。しかし、基本的に彼が言っているのは、以前に死んだ人も、今生きている人も、将来的に生きる人も関係なく、全員が、座るのではなく、横になるのではなく、神の御前に立つ日が来る。そしてダニエルは、神の玉座の部屋についての素晴らしい描写の中で、積み上げられた数々の書と、そして一冊の書について語りました。皆さんは、自分の名前が、積み上げられた数々の書ではなく、一冊の書に記されるようにしなければなりません。一冊の書とは、いのちの書、積み上げられた数々の書とは、あなたの行為が記録されている書のことです。自分のしたことに対して裁かれるのではなく、主がしてくださったことに対して裁かれないものです。そのためには、唯一、メシアが完成された働きに信頼を置かなければなりません。イエスの贖いの死、そしてもちろん復活です。そうすれば、永遠の命という素晴らしい贈り物を享受でき、そして、自分が永遠の命を持っていることが分かります。それだけです。信者、真の信者、新生した信者は、自分が永遠の命を持っているかどうかを、推測する必要はありません。自分は永遠の命を持っているかどうか、疑問に思う必要はありません。永遠の命を望む必要はありません。そうでなく、永遠の命を持っていることを知っています。そして永遠の命とは、生き続けるという意味です。つまり、ここから出た後、カーテンをくぐって次に移るのです。

マイク: ええ、実際、今から外に出て、車で走行中にドローンがぶつかったとしても、私はすでに、その場所に行ったことがあります...

アミール: ...待合室？

マイク: だから、同じ場所に行くでしょう。この保証について、私は、すべてのリスナーにお聞きします。あなたに懇願します。自分の魂を賭けないでください。自分の魂を賭けて「ああ、明日調べよう」とか、「ああ、自分が死んだらどうなるのか、なんとなく分かってる。」などと言わないでください。それは愚かなことだと思います。

アミール: では、このエピソードを締めくくるにあたり、あちらのカメラを見ながら、視聴者の今の状況すべてを包むお祈りをお願いできますか？ 未信者、信仰から離れている人たち、そして、キリストを信じる者、全て。

マイク: 分かりました。皆さんが今いる場所で、今これを聞いている人も、または、配信から数週間後に聞いている人も、友よ、私と一緒に祈ってください。あなたは、神が存在するかどうかさえ、わからないかもしれませんが、ただ信じて祈ってください。



神よ、もしあなたが存在されるのなら、主の存在を知っている私たちは、あなたを主、父と呼びますが、父よ、あなたのご計画と、唯一イエスによって与えられる救いの重要性を私たちに示してください。天国の保証、第一ヨハネの手紙によれば、私たちが自分の救いを知ることを、神は望んでおられます。神に向かって叫び、こう言ってください。「イエス様、主なる神よ、私の罪をお赦してください。私は絶対に許されているという確信をお与えください。どうか私の人生に入り、私をお救いください。あなたを知るとはどういうことか教えてください。もし私に何かが起こったとしても、私は永遠にあなたと共にいることを、確信できるようにしてください。」

友の皆さん、このお祈りに、次のことも含めたいと思います。重要なのは、天国や地獄に行くことではありません。重要なのは、全能の神である主を、個人的に知ること、そして、あなたの地上における神の使命が何であるかを発見することです。主は、コミュニケーションを通して私にこう言われました。「あなたには、まだ使命がある」つまり、実際に天国に行く前に、私には、まだここでやるべきことがあるということです。私は、それを皆さんにチャレンジしたいと思います。神は、あなたのために何を用意しておられますか？ それを理解する唯一の方法は、神のもとに行くことです。そしてイエスは、それをするための唯一の道であり、真理であり、いのちです。

ですから、主よ、感謝します。今この祈りを捧げた、一人一人を祝福してください。アーメン。

アミール: これについて読んで祈ること、特に、イスラエルの人々に福音を伝える場合、ミネソタからそれを行うのと、エズレル平野からそれを行うのでは、全く違います。ここは、存亡をかけた戦争の

真っ只中で、F-16、F-15、F-35 が離着陸し、ドローンが飛行し、ヘリコプターがそれらを追跡し、ロケット弾を迎撃しています。戦争が始まって以来、26,000 発のロケット弾です。

マイク: 信じられません。

アミール: ロケット 26,000 発。神は存在しないと私に言ってください。つまり、これは...神がイスラエルを守っておられることを、未信者に伝える方法が一つあるとすれば、その数だけでも、こんなに小さな国に 26,000 発のロケットです。神が存在することが、どうして分からないのか？

マイク: 神なしでは不可能です。

アミール: はい。ですから、これを見ている皆さんには、真剣に受け止めていただきたいと思います。私の隣に座っている人物は...というか、私たちは二人とも、義父が亡くなっているのを見たのです。私たちは、すでに何時間も生命を失っていた遺体を見ました。そして、喜びに満ち、信仰に満ち、強い信仰を持つ義父を知っている私たちにとって、そこで義父を見れば、彼がすでにどこか別の場所にいるのは明らかでした。私たちは、それを、2022 年 4 月のあの恐ろしい朝から学んだのです。しかし、マイク、あなたには今、共有できるもう一つの話がありますね。他の人に伝えることができる、新たな体験をされました。そしてあなたは、あなたの救い主が生きておられることを知っています。

マイク: ええ、知っています、知っています、それは否定できません。

アミール: あなた自身の経験、あなた自身の証から話すことは、常に非常にパワフルです。「人に何を言えばいいのか分からない」と言う人はいません。ただ、あなたの話を伝えるのです。それだけで、救いにつながる十分なパワーがあります。

皆さんに、今日は、ご視聴いただき、ありがとうございます。聞いたことをすべて心に留めてください。そして、「[Dead See \(死者は見る\)](#)」という私のメッセージをぜひご覧いただきたいと思います。「見る」の「SEE」です。死後に関する内容です。何が起こるのか？旧約聖書ではどうだったのか、そして、新約聖書以降の今はどうなのか？その動画へのリンクが、画面の真下に表示されます。ぜひご覧ください。そして、あなた自身の信仰生活だけでなく、この世の人生の後にも命があることを、考えもしていないであろう、周りのすべての人のために、祈りましょう。

マイク牧師、今日はありがとうございます。あと数日間ここにいますが、友よ、あなたに会うのは、いつも嬉しいものです。

マイク: 私も、あなたに会えて良かったです。

アミール: 私が良かったと思うのは、あなたが、私達の家滞在していて、あなたが実際、防空シェルターで寝ていることです。(マイク:はい。)そしてあなたは、このクレイジーな現実を直接体験していますね。(マイク:今のところ毎日です。) 私たちが今直面しているこれを。

マイク: 今のところ、毎日攻撃があります。

アミール: 皆さん、改めて、ありがとうございます。シャローム、神の祝福がありますように。

次回のアンカーポッドキャストで、またお会いしましょう。イスラエルのガリラヤからさようなら。



アミール・ツアルファティ テレグラムチャンネル

ビホールド・イスラエル 日本語チャンネル

<https://www.youtube.com/@BeholdIsraelJapanese>

メッセージの無断転載を固く禁じます。

Copyright © ビホールド・イスラエル All Rights Reserved.

